

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	実社会に必要な語句の定義や意義を理解している。また、文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
価 A わかる	実社会に必要な国語の語彙や表現の知識・技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	他者の主張や発言にもとづいて、対話をとらえ論理的・多角的な視点で説明できる。考える力を養い、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力することができる。
基 B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことができる。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	他者の主張の主張にもとづいて、対話をとらえることができる。また、伝え合う力を養い、自分の考えや思いを広げることができる。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
準 C する	実社会において必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢・授業時の観察

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 自己と他者 2 コミュニケーションの手段 3 メディアの変容
2 学期	4 言語の探究 5 政治と社会 6 存在への問い 7 環境へのまなざし
3 学期	

何で学ぶか(教材)

大修館『論理国語』705
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』
教員作成資料

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習
ICTの使用

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。	「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで本文と付属資料を関連付けて捉え、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。
価 A わかる	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。
基 B できる	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
準 C する	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	進んで古典特有の読み方を確認し、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。
評価方法	観察、ワークシート、小テスト、定期テスト	観察、ワークシート、小テスト、定期テスト	観察、ワークシート、学習課題

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文) 随筆, 歌物語 『枕草子』『伊勢物語』『大和物語』 (漢文) 小話『十八史略』 古詩
2 学期	(古文) 歴史物語、歌論、作り物語 『大鏡』『仮名序』『源氏物語』 (漢文) 『史記』, 『論語』 『孟子』, 『荀子』, 『老子』, 『莊子』
3 学期	

何で学ぶか(教材)

「新編 古典探究」(東京書籍) 「新編 古典探究(準拠ワーク)」(東京書籍) 「体系古典文法」(数研出版) 「古文単語315」(桐原書店) 各種ワークシート
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

科目名	政治・経済	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポ科	コース 特進
目標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の政治・経済的課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の政治・経済的課題について、考察し、主体的に解決しようとするすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 提出物 提出物 	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1部第1編現代日本の政治 第1部第2編現代日本の経済 第1部第3編現代日本における諸課題の研究
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第1編現代の国際政治 第2部第2編現代の国際経済 第2部第3編国際社会における諸課題の研究
3 学期	

何で学ぶか(教材)

準拠ワーク プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション

科目名	地理総合	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育て、現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使 え る	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代世界の地理的な諸課題に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組む追及している。
A わ か る	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。	
B で き る	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項を理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。	
C す る	現代世界の地理的な諸課題を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。	
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	地図と地理情報システム 結びつきを深める現代世界 生活文化の多様性と国際理解
2 学 期	生活文化の多様性と国際理解 地球的課題と国際協力 自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

帝国書院『新地理総合』 帝国書院『高等学校 新地理総合ノート』 帝国書院『新詳高等地図』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	日本史探究	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学 期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学 期	大学入試問題演習

何で学ぶか(教材)

<p>詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)</p>
--

どのように学ぶか(授業方法など)

<p>講義 ペア学習・グループ学習</p>

科目名	世界史探究	授業時数	週 4 単位
		コース・学年	スポーツ科学(特進) 3 学年
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使 え る	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
価 A わ か る	諸問題(政治・外交・経済等)の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B で き る	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準 C す る	基本的な歴史的な事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺
2 学 期	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界 問題演習
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

山川出版社『詳説世界史』 啓隆社『新世界史要点ノート(応用編)』 啓隆社『世界史重要語句Check List』 浜島書店『詳説世界史図説』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	実践数学	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	事象と数学のかかわりや，社会的有用性についての認識を深めるとともに，課題を設定し，解決までのプロセスを多角的に考察し，協働して論理的に解決しようとする態度を育てる			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 標準	S 使える	事象を数学的に捉え，適切な数学的处理ができる。	事象を多面的に捉え，それを数学的・論理的に表すことができる。	自ら課題を設定し，既習内容を活用・応用することができる。
	A わかる	与えられた課題の解決方法を自ら導くことができる。	事象を多面的に捉え，協働し数学的論理を考察することができる。	自ら課題を設定し，既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
	B できる	与えられた課題について，指示した方法で解決することができる。	事象を理解するために，協働し考察することができる。	与えられた課題に取り組み，理解をするために自ら質問することができる。
	C する	基本的な事象について考え方や公式を選択し，回答することができる。	解いた内容を言語化し，発表することができる。	指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法	授業での演習 定期考査等の試験 記述式問題	グループ学習 発表 定期考査等の試験 記述式の問題	授業での演習 提出物	

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	3TRIAL数学 I +A (TRIAL Aが中心) 外部模試過去問
2 学期	3TRIAL数学 I +A (TRIAL Aが中心) 外部模試過去問
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版 新編数学 I
数研出版 新編数学A
数研出版 3TRIAL数学 I +A

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
スタディサプリ

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	微分・積分について理解させ、基礎的な知識・技能の習得を図り、活用する態度を育てる。また、事象と数学のかかわりや、社会的有用性についての認識を深めながら、課題の設定、解決までのプロセスを多角的に考察し、論理的に解決しようとする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 標準	S 使える	事象を数学的に捉え、適切な数学的处理ができる。	事象を多面的に捉え、それを数学的・論理的に表すことができる。	自ら課題を設定し、既習内容を活用・応用することができる。
	A わかる	与えられた課題の解決方法を自ら導くことができる。	事象を多面的に捉え、協働し数学的論理を考察することができる。	自ら課題を設定し、既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
	B できる	与えられた課題について、指示した方法で解決することができる。	事象を理解するために、協働し考察することができる。	与えられた課題に取り組み、理解をするために自ら質問することができる。
	C する	基本的な事象について考え方や公式を選択し、回答することができる。	解いた内容を言語化し、発表することができる。	指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法	授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第6章 微分法と積分法 3TRIALのTRIAL B問題
2 学期	外部模試過去問
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『新編 数学Ⅱ』 数研出版『3TRIAL数学Ⅱ+B』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材(chromebook)
--

科目名	英語コミュニケーションⅢ	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	自分の意見を適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちやアイコンタクトがとれ、積極的に関わろうとする。
価	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	指定された時間内に正しい発音で、内容を分かりながら読める。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
基	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読みたり書いたりすることができる。	指定された時間内に正しい発音で読める。また事実と意見などを区別して、理解できる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
準	モデル文を真似てゆっくりはつきり読み、丁寧に書くことができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。(用具、服装・整理整頓など) また教師の話を中心して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・インタビューテスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・音読テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Discourse Marker, L1 Emperor Penguin L2 Caffeine, L3 Blood is Blood L4 Biomimetics
2 学期	L5 Communication without Words L6 Christmas Truce L7 Political Correctness L8 Global Water Crisis
3 学期	

何で学ぶか(教材)

啓林館『LANDMARK Fit』 English Communication III 数研出版『必携英単語LEAP』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価	使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
基 準	わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	できる	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は30秒、40秒）、新聞記事を使った意見文（結論→根拠の展開）、テーマ型意見文（400字、600字）、課題文要約
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型意見文・テーマ型小論文、スポーツ業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ
3 学期	スピーチ（1分間）、テーマ型小論文、課題文型小論文、スポーツ業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる。

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 新聞記事 専門学校・大学の過去問題、

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループワーク ペアワーク 課題

科目名	実践生物基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポ科	コース 特進
目標	生物基礎で学習する内容の概要を把握するとともに、問題演習を繰り返すことで基礎的な知識を活用し、発展的な問題を解く力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を持ち、主体的に調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。	グループ活動等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	分野別問題演習
2 学期	分野別問題演習 総合問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

副教材 (数研出版 大学入学共通テスト
チェック&演習生物基礎)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義, 問題演習
ペアワーク・グループワーク

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子をを整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
価	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	できる 基礎練習を正しくおこなう、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	基礎体力	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	初動負荷マシンを利用したウェイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋力を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育む。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身につけ、どこの筋肉・関節と連動しているか理解している。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現できる。	初動負荷とレーニングを生かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとする事ができる。
価 A わかる	弛緩→伸長→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでマシン動作を身につけている。	自分の体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B できる	すべてのマシン12種目の機能を理解し、適切な動作を身につけている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できない所を自ら人に聞いたり、他の人が困っている時に一緒に考察することができる。
準 C する	基本的なマシン4種類の機能を理解し、適切な動作を身につけている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体の仕組みなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループトレーニング 映像学習 (動画)

科目名	実践英語	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	長文や文法, リスニングの問題演習により思考力, 判断力を向上させることで大学入試共通テストや私立大学の入試レベルの学力を身につける。			

どのような力を, どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	入試レベルの問題演習において, 単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	入試レベルの問題演習において, 正しく解答することができる。	入試レベルの問題を積極的に解き, 復習し, 読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において, 語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において, 根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく, 積極的に復習をし, 弱点を補強しようとする。
	B できる	単語や語句の力が向上している。	演習問題において, 自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において, 自分で考え, 根拠に基づいて解答しようとする。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	LESSON1~LESSON7(文型, 時制完了形, 助動詞, 受動態, 不定詞(1)不定詞(2))
2 学期	LESSON8~LESSON15(動名詞, 分詞, 準動詞のまとめ, 比較, 関係詞(1)関係詞(2), 仮定法(1), 仮定法(2))
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集UNITE STAGE 2 英検過去問 大学入試過去問
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 ペア学習・グループ学習 講義による解説

科目名	選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通して、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育む。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S A B C	実践の中で、技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中の状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出したりすることができる。	各競技での経験を生かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	専門体力を有し、競技に応じた技術を身につけている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っている時に一緒に考察することができる。
	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身につけている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、食育、または栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎演習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技による

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 競技ごとの練習
